

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成18年11月30日(2006.11.30)

【公開番号】特開2000-226553(P2000-226553A)

【公開日】平成12年8月15日(2000.8.15)

【出願番号】特願平11-297995

【国際特許分類】

C 09 D 163/00	(2006.01)
B 05 D 7/14	(2006.01)
C 09 D 5/16	(2006.01)
C 09 D 183/02	(2006.01)

【F I】

C 09 D 163/00	
B 05 D 7/14	M
C 09 D 5/16	
C 09 D 183/02	

【手続補正書】

【提出日】平成18年10月17日(2006.10.17)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】 硬化工ポキシ樹脂でコートされた金属基材を、その上に後で二重シリコーン汚損除去コーティングが塗布できるように大気条件下で改質する方法であって、当該方法が、

(a) 硬化工ポキシ樹脂でコートされた金属基材上に、(i) エポキシ樹脂塗料80～85重量%及び(ii) 振発性炭化水素溶剤と部分縮合有機シリケートと可溶化金属触媒とアミノアルキルトリアルコキシシランとを含むシリコーン接着促進剤15～20重量%を含んでなるエポキシ-シリコーン-接着剤塗料を塗布する段階を含んでなり、アミノアルキルトリアルコキシシランがシリコーン接着促進剤中に、上記エポキシ-シリコーン-接着剤塗料を硬化時に少なくとも粘着状態、すなわち後で塗布される縮合硬化RTVを十分に固着するのに十分な程度の接着力を与えるか或いは不粘着状態に達しらせしめたときにASTM D-4541による凝縮破壊値を与えるのに少なくとも十分な量で存在する、方法。

【請求項2】 前記アミノアルキルトリアルコキシシランが-アミノプロピルトリメトキシシランである、請求項1記載の方法。

【請求項3】 前記有機シリケートがアルキルシリケートである、請求項1記載の方法。

【請求項4】 硬化工ポキシ樹脂でコートされた鋼基材を、その上に後で二重シリコーン汚損除去コーティングが塗布できるように大気条件下で改質する請求項1記載の方法であって、前記シリコーン接着剤混合物が、ミネラルスピリットと部分縮合エチルシリケートと可溶化ジブチルスズオキシドと有効量の-アミノプロピルトリメトキシシランとを含む、方法。

【請求項5】 前記エポキシ-シリコーン-接着剤塗料を前記硬化工ポキシ樹脂でコートされた金属基材の表面にスプレーする、請求項1記載の方法。

【請求項6】 前記縮合硬化RTVが有機ケイ素縮合硬化RTV結合層である、請求

項 1 記載の方法。

【請求項 7】 前記有機ケイ素縮合硬化 R T V 結合層の上に縮合硬化シリコーン R T V を塗布して二重シリコーン汚損除去コーティングを形成する、請求項 6 記載の方法。

【請求項 8】 (i) エポキシ樹脂塗料 80 ~ 85 重量 % 及び (ii) 撥発性炭化水素溶剤と部分縮合有機シリケートと可溶化金属触媒とアミノアルキルトリアルコキシランとを含むシリコーン接着促進剤 15 ~ 20 重量 % を含んでなるエポキシ - シリコーン - 接着剤塗料であって、アミノアルキルトリアルコキシランがシリコーン接着促進剤中に、上記エポキシ - シリコーン - 接着剤塗料を硬化時に少なくとも粘着状態、すなわち後で塗布される縮合硬化 R T V を十分に固着するのに十分な程度の接着力を与えるか或いは不粘着状態に達しせしめたときに ASTM D - 4541 による凝縮破壊値を与えるのに少なくとも十分な量で存在する、エポキシ - シリコーン - 接着剤塗料。

【請求項 9】 前記アミノアルキルトリアルコキシランが - アミノプロピルトリメトキシランである、請求項 8 記載のエポキシ - シリコーン - 接着剤塗料。

【請求項 10】 耐腐食性エポキシでコートされた金属基材の表面に直接塗布されるエポキシ - シリコーン - 接着剤塗料を用いて得られた二重シリコーン汚損除去コーティングを有する基材であって、上記エポキシ - シリコーン - 接着剤塗料が (i) エポキシ樹脂塗料 80 ~ 85 重量 % 及び (ii) 撥発性炭化水素溶剤と部分縮合有機シリケートと可溶化金属触媒とアミノアルキルトリアルコキシランとを含むシリコーン接着促進剤 15 ~ 20 重量 % を含んでなり、アミノアルキルトリアルコキシランがシリコーン接着促進剤中に、上記エポキシ - シリコーン - 接着剤塗料を硬化時に少なくとも粘着状態、すなわち後で塗布される縮合硬化 R T V を十分に固着するのに十分な程度の接着力を与えるか或いは不粘着状態に達しせしめたときに ASTM D - 4541 による凝縮破壊値を与えるのに少なくとも十分な量で存在する、基材。